

長崎に於ける女生徒の初經期調査特に 原子爆彈による影響に就て

Survey of Menarcheal Age of School Girls in Nagasaki,
with Special Reference to the Influence of the A-Bomb Radiation upon it

長崎大學醫學部産科婦人科學教室員一同

代表 教授 三 谷 靖 Yasushi Mitani

前 編

(1) 緒 言

昭和20年8月9日午前11時15分、長崎市松山町の一隅500米上空で、原子爆彈が炸裂し、莫大な損害を與えた。その死傷者に就ては、當時の状況よりして、正確な數値は不明であるが、最近の推定によれば、死者73,844人、負傷者74,909人と言われている。この原子爆彈の殘存影響力に就ては各方面から研究されているが、吾々は女生徒の初經來潮期の面から統計的觀察を試みた。

(2) 調 査 法

調査は昭和22年12月、24年12月、26年6月の3回に亘つている。先ず所要事項記入の調査票を各學校の學級毎又は學年毎に配布し、調査目的、記載例を懇切に説明しその場で直ちに記入させて内容の正確を期した。

調査にあつて懇切に説明したつもりでも、記入が餘り正確と思われない點のある原子爆彈障導その他に就ては除外し、最も簡単な項目のみを纏めた。

(3) 分 類 法

被爆當時の住所の爆心地からの距離差によつて初經來潮期に差異がないかと言うのが吾々の目的である。

然し、遮蔽關係(地形、場所、衣服等)も重要な要素と考えられるが、長崎の地形が極めて複雑であるので、分類の煩雜を避けるために、單に爆心地からの距離別の分類に従つた。吾々の調査對象にした女生徒中には、未だ月經のない者も多數含

まれ、且つ昭和20年8月以前に初經のあつた者は除外されているので、單なる距離別分類によつて平均初經年齡を比較する丈でなくて、その年齢的構成を檢討しなければならない。若し原爆による初經來潮期に對する影響がないとするならば、距離別分類の中に、年長者が多いとそれだけ被爆前に初經のあつた者が多く除外され得る。従つて、平均初經年齡は遅くなり、反對に年少者が多いと未だ初經のない者は對象とならないから、平均初經年齡は速くなる筈である。よつて同一年齡範圍内で検討する必要があると思う。

成績 第1回調査(昭和22年12月)

長崎市内の活水、縣立兩女子專門學校、活水、縣立、市立、玉木、鶴鳴、瓊浦の各高等女學校、及び長崎女子商業學校の生徒を調査し、記載事項の完全なもの2067名に就いて、前述の如き分類法に従い、爆心地からの距離及び被爆時年齢との相關に於て、表1を作つた。

表1に於ける如く1籽以内の者の平均初經年齡は15年4カ月で、2籽以内15年1カ月で、3籽以遠の者に比して初經年齡が遅れている様に見えるが被爆時年齢別分類との關係に於て、5籽以遠の者を對象として5%の危険率にて χ^2 -testを行つたが、距離別分類の初經年齡には一定の差異を認めない。又、距離別分類毎に平均被爆時年齢を調べると、1籽以内の者は13年10カ月、2籽以内の者は13年8カ月で他は13年4カ月乃至5カ月であつて、平均被爆時年齢と平均初經年齡との差は何れも1年5カ月乃至1年6カ月である。即ち2籽以

表1 平均初経年齢(昭和22年)

		被 爆 時 年 齢								平均被爆時年齢	平均被爆時年齢と平均初経年齢との差	
		10歳	11	12	13	14	15	16	17			計
距	1 秆		(1)	14.8 (9)	14.7 (7)	16.0 (12)	15.11 (5)	(1)		15.4 (35)	13.10	1.6
	2	(1)	(2)	14.6 (19)	15.0 (36)	15.6 (33)	15.11 (7)			15.1 (98)	13.8	1.5
	3		13.7 (12)	14.3 (33)	14.9 (73)	15.5 (42)	15.10 (10)	(1)		14.10 (171)	13.5	1.5
	4		13.4 (15)	14.4 (110)	14.9 (192)	15.6 (108)	16.3 (23)	(4)		14.11 (452)	13.5	1.6
	5	(1)	13.6 (12)	14.3 (108)	14.10 (187)	15.6 (108)	16.0 (18)			14.10 (434)	13.5	1.5
離	5 秆以上		13.7 (50)	14.4 (237)	14.11 (352)	15.5 (181)	16.2 (52)	(4)	(1)	14.10 (877)	13.4	1.6
	計	(2)	13.6 (92)	14.4 (516)	14.10 (847)	15.6 (484)	16.1 (115)	16.10 (10)	(1)	14.10 (2067)		

註 14.8は満年齢14年8月を意味する。以下同様 ()内は例数を示す

内に於ては年長者が比較的多い爲の偶然の数値であつて、距離別には初経年齢の差異を認めない。

第2回調査(昭和24年12月)

長崎市内の活水、縣立兩女子専門學校、長崎東、西兩高校、活水、純心、玉木、鶴鳴、瓊浦、女子商業の各高校及び中學部、西浦上、淵の兩中學校の生徒、及び對照として諫早市内學校女生徒(諫早高校、中學及び本院附屬厚生女學部)計2,567名に就いて前回と同様の分類に従い表2を作つた。表2

の如く、被爆時年齢は10歳から16歳の間で、第1回調査と同様であるが、前回調査より2年経過しているため、同一被爆時年齢でも前回調査では初経來潮がなくて、今回調査對象となつた者も可成り多く(特に被爆時年齢の若い者に於て)又、卒業生もあるので、内容には可成り差異があるものと思う。第2回調査に於ては、被爆時年齢別分類は勿論、單なる距離別分類によつても、初経來潮期に一定の差異を認めない。

表2 平均初経年齢(昭和24年)

		被 爆 時 年 齢								平均被爆時年齢	平均被爆時年齢と平均初経年齢との差	
		10歳	11	12	13	14	15	16	計			
距	1 秆	13.11 (5)	14.8 (15)	14.8 (8)	15.3 (8)	(1)	(2)			14.9 (39)	12.2	2.7
	2	14.2 (12)	14.4 (33)	14.8 (13)	14.10 (14)	15.7 (4)				14.6 (76)	11.11	2.7
	3	14.2 (39)	14.5 (81)	14.10 (81)	14.11 (61)	15.5 (18)	(4)			14.8 (284)	12.2	2.6
	4	14.0 (19)	14.7 (79)	14.10 (109)	15.3 (58)	15.5 (18)	(2)			14.10 (285)	12.4	2.6
	5	14.0 (43)	14.4 (59)	14.9 (90)	14.11 (43)	15.9 (9)	(2)			14.7 (246)	12.1	2.6
離	5 秆以上	14.0 (157)	14.6 (364)	14.8 (300)	15.0 (146)	15.8 (31)	(8)			14.7 (1006)	11.11	2.8
	諫早	14.0 (100)	14.4 (182)	14.8 (185)	14.11 (128)	15.3 (29)	(4)	(3)		14.7 (631)	12.1	2.6
	計	14.0 (375)	14.6 (813)	14.9 (785)	15.0 (458)	15.6 (110)	(22)	(3)		14.7 (2567)		2.7

註 表1に同じ

第3回調査(昭和26年6月)

長崎市の學校に就いては第2回調査の各校の他

に、長崎商業高校、山里、丸尾、長崎、片淵、櫻馬場、西泊の各中學校、對照として諫早市内高校、

表3 初經年齢(昭和26年度)

		現 在 時 満 年 齢								平均初 經年齢	平均被 爆時年 齢	差	
		12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳				20歳以上
距	1~ 2 籽		12.0 (1)	13.9 (19)	14.5 (19)	14.9 (21)	14.8 (11)	14.6 (2)	16.3 (1)		14.4 (74)	10.0	4.4
	3 籽	11.6 (1)	13.0 (16)	13.10 (55)	14.4 (77)	14.7 (51)	14.7 (62)	14.10 (30)	15.0 (10)	15.1 (2)	14.4 (304)	10.4	4.0
	4 籽	12.4 (4)	13.0 (26)	13.10 (87)	14.4 (144)	14.8 (104)	14.10 (100)	15.4 (48)	15.0 (11)	16.0 (4)	14.5 (528)	10.3	4.2
	5 籽	12.4 (4)	12.11 (13)	13.10 (65)	14.6 (88)	14.7 (86)	14.7 (47)	14.11 (41)	15.6 (9)	16.9 (1)	14.5 (354)	10.3	4.2
離	5 籽 以上	12.3 (12)	13.0 (85)	13.6 (369)	14.3 (671)	14.8 (552)	14.10 (437)	15.0 (294)	15.2 (120)	15.5 (34)	14.6 (2574)	10.6	4.0
	諫早		13.0 (8)	13.9 (55)	14.5 (108)	14.8 (120)	14.10 (125)	15.1 (67)	16.3 (10)		14.7 (493)	10.7	4.0
平均初經		12.3 (21)	13.0 (149)	13.7 (650)	14.4 (1107)	14.8 (934)	14.9 (782)	15.0 (482)	16.2 (161)	15.6 (41)	14.6 (4327)		

註 同 じ

中學校の女生徒を調査した。又今回は前回の経験を生かして、未だ月経のない者も対象に取つた。2籽以内は一括し、前回と同様の分類法により表3を作つた。2籽以内の者の平均初經年齢は14年4カ月、3籽以内は14年4カ月、4籽、5籽以内は14年5カ月、5籽以遠は14年6カ月、諫早女生徒は14年7カ月で、距離別分類と初經年齢との相關に於て、數値を検討すると、爆心地に近い丈け初經來潮期が早くなる傾向を認めたが、調査時年齢毎に(今回は便宜上被爆時年齢の代りに調査時年齢をとつた)検討すると、距離別による差異を認めない。又、16歳以下(16歳の者は被爆時10歳から11歳である)だけを調べると、2籽以内14年3カ月、3籽以内14年2カ月、4籽、5籽以内14年3カ月、5籽以遠14年1カ月、諫早14年4カ月であつ

て、爆心地からの距離に比例した一定の差異を認めない。2籽以内の者の被爆時の平均年齢は10年0カ月、他は10年3カ月乃至7カ月で、第1回調査とは反對に年少者が多い爲に、偶然的に初經年齢が早いような數値になつたと思われる。

又、未だ月経の無い者3533名に就いて、表4を作つた。例數中の分子は、未だ月経の無い者の例數で、分母は、未だ月経の無い者と既に月経のあつた者との和である。距離別分類に於て、若し百分率の數値が爆心地に近いだけ漸次多ければ、初經來潮期が遅れるかも知れない事(その初經がいつ來潮するか不明であるが)を示すものであるが、距離と一定關係にある様な數値を見出し得ない。

表3及び4による如く、爆心地からの距離差による初經來潮期に遅速の差異を認めない、と言い

表4 現在年齢(調査時)

		11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳以上
距	1~2籽			(98.0%) 49/50	(66.6%) 38/57	(32.1%) 9/28	(4.5%) 1/22	(0%) 0/11	(0%) 0/2	(0%) 0/1	
	3		(98.9%) 93/96	(88.5%) 124/140	(63.3%) 95/150	(23.0%) 23/100	(7.2%) 4/55	(0%) 0/62	(0%) 0/30	(0%) 0/10	(0%) 0/2
	4	(100%) 2/2	(97.1%) 134/138	(88.9%) 209/235	(58.1%) 121/208	(13.7%) 23/167	(3.7%) 4/108	(0.9%) 1/101	(0%) 0/43	(0%) 0/11	(0%) 0/4
	5		(96.4%) 108/112	(92.3%) 156/169	(65.7%) 125/190	(31.7%) 41/129	(8.5%) 8/94	(0%) 0/47	(2%) 1/42	(0%) 0/9	(0%) 0/1
離	5 籽以上	(100%) 1/1	(97.3%) 441/453	(89.6%) 753/833	(50.0%) 369/738	(23.3%) 204/875	(8.3%) 50/602	(1.7%) 8/445	(0.3%) 1/295	(0.8%) 1/121	(2.8%) 1/35
	諫早		(100%) 69/69	(92.7%) 96/140	(48.1%) 51/106	(10.0%) 12/120	(2.5%) 3/123	(0%) 0/125	(0.3%) 2/69	(0%) 0/10	

註 (49/50)は 49=未だ月経のない者の例數, 50=未だ月経のない者(49名)+初經のあつた者(1名)=50名

得る。今回の調査時は被爆後約6年近いのであるが初經の來潮する年齢範圍は後記する如く、12歳乃至16歳の5年間で、この數値は今回の調査対象期間より短いので、初經來潮期を調べるのに大體に於て充分な期間であると考ええる。(第1回調査は、この點に關して2年4カ月しかないので不充分と思う)。

考 按

初經來潮期を決定する要素としては、氣候、人種、社會的地位、生活狀態、遺傳的關係等が擧げられている。又長崎市内の被爆女生徒には、更に原子爆彈による影響力が考えられる。原子爆彈の人體に及ぼす影響に就いては日本側の原爆調査委員會は4期に分けている。(昭和21年3月)

第I期(早期)

被爆後より10日前後の間

第II期(中期)

前期より1カ月間餘

第III期(晩期)

第2カ月目の後半から第3カ月目に及ぶ間

第IV期(後胎期)

第4カ月以降で原子爆彈の人體への主なる影響は、大體過ぎ去つて了い、各種の障碍も大體恢復したと考えられ、特別の後遺症狀に就いてのみ検討を要すると言われている。

長崎に於ける放射線病と距離との關係に就いては、九大澤田内科の報告によれば、2籽以内の者の發病率は、84%で、2籽以遠は急速に減じ、操内科の報告によれば、0から5籽の間に發病し、ことに2籽以内が3分の2を占め、4籽以上の地域の者は稀で、又、楠内科にても2籽以内84%、2籽以遠16%であると言う。廣島に於ける東大の調査によれば、發病範圍は2.8籽以内で2籽以遠は少い。以上要するに、5籽以遠は放射能の影響力は殆んどないと考えられる。

次には、被爆地區の汚染の問題で、被爆後數日間は、或る程度の人體に悪影響を及ぼす障碍因子(原子核分裂破片、誘導放射能、爆發時に發生した毒ガス様物)が残っているが、その後數日間にその汚染度は急速に減じ、1週間後には、直接に

は人體に悪影響を及ぼす程度の汚染は残っていないと言われる。

廣島地區に於ける東大の調査によると、性熟婦人399名中278名69.7%に、月經異常、主に無月經を認め、之は爆心地に近い程高率であつて、引續き調査したところ一時無月經であつた者の80%以上は、早きは2カ月遅くとも6カ月後より月經再潮したと言う。

昭和21年9月廣島に於ける庄司、刈屋の調査によれば、廣島女生徒中、原子爆彈に遭遇して、外傷火傷のある者の平均初經年齢は15.55年、外傷火傷のない者15.24年で原爆に遭わない廣島女學生は14.16年、岩國女學生は14.70年で、數え年による初經年齢分布にも同様な影響のあることを報じている。亦初經と季節との關係に於いて、被爆後の秋に來潮すべき筈の者が12月乃至翌年になつたと言う。原爆前に初經あり順調だつた者も、大多數に無月經を招來し、外傷火傷ある者128名中68%、外傷火傷のない者200名中60%に、それぞれ1カ月以上の無月經を來し、その約90%が恢復するのに、前者は6カ月乃至7カ月を要し、後者は4カ月を要したと言う。

以上の凡ては、原子爆彈そのものの影響とみているが月經に及ぼす環境の變化に伴う精神的、肉體的條件も、被爆地に於ては充分考慮に入れなければならないので、放射能のみの影響によると斷定するには慎重でなければならないと思う。

吾々の調査は、被爆後2年4カ月、4年4カ月、5年10カ月の3回に亙り、吾々の分類法によつては原子爆彈による初經來潮期の變化を認めなかつた。上記3回の調査よりして、現在概ね健康に暮している者には、初經來潮期に影響を及ぼす程の原子爆彈の影響力は残っていないのではないかと思う。勿論、吾々調査対象とした女生徒の中、まだ月經のない者が何時から來潮するか不明であるので斷定的な事は言えないが、調査時期に於ての初經期の大要を知り得ると思う。

後 編

前編に記した様に吾々は長崎、諫早兩市内學校女生徒の初經來潮期を、原子爆彈の影響力との關

係に於て調査し、概ね無關係な事を推論した。然し昭和20年8月被爆前に初經の來潮した者は除外したので一般の女生徒の初經期調査と比較し得ない憾みがある。よつてその除外例を加えて統計的觀察を試みた。

材料は昭和26年6月調査を行つたものである。長崎市内學校女生徒では、調査時年齢17歳以下には變動なく18歳以上に41名追加し、諫早市内學校女生徒には追加はなかつた。よつて長崎生徒3875

名、諫早生徒493名に就いて、調査時年齢と初經年齢との相關に於て、表5、表6を作つた。從來の女學生の初經期調査の多くは、その年齢構成を無視して平均初經年齢だけを出しているが表5、表6による如く、年少者の平均初經年齢は小で年長者のそれは大となり、その何れの部分を多く含むかによつて、全體の平均初經年齢は如何様にもなり得るものである。それは未だ初經のない女生徒をも對象とせざるを得ないからである。

表 5 長崎女生徒

現在年齢(調査時)	初 經 年 齡																計	平均初經年齡		
	11歳		12歳		13歳		14歳		15歳		16歳		17歳		18歳				19歳	
	0月5月	6-11	0-5	6-11	0-5	6-11	0-5	6-11	0-5	6-11	0-5	6-11	0-5	6-11	0-5	6-11			0-5	6-11
12歳	1	1	12	7															21	12年3月
13歳		5	12	41	48	35													141	13年3月
14歳	3		11	32	89	163	202	95											595	13年7月
15歳	2	3	13	22	73	136	227	286	193	44									999	14年4月
16歳		5	5	16	38	87	138	169	190	116	45	5							814	14年8月
17歳	1	1	11	13	27	43	107	127	125	107	55	28	11	1					657	14年9月
18歳			4	4	17	27	56	75	88	66	46	19	12	3	2				419	15年0月
19歳			1	3	11	15	22	22	27	25	23	8	2	3	1		1		164	15年2月
20歳以上				1	2	6	3	6	11	10	11	6	4	2	1		1	1	65	15年1月
小計	7	15	69	139	305	512	634	368	634	368	180	66	29	9	4		2	1	3875	14年5月
計	22		208		817		1535		1002		246		38		4		3			
%	0.6%		5.1%		21.1%		39.6%		25.9%		6.3%		1.0%		0.1%					

表 6 諫早女生徒

現在年齢(調査時)	初 經 年 齡												計	平均初經						
	11歳		12		13		14		15		16				17		18			
	0-5	6-11	0-5	6-11	0-5	6-11	0-5	6-11	0-5	6-11	0-5	6-11			0-5	6-11	0-5	6-11		
13歳		1		1	4	2													8	13年0月
14			4		8	11	24	8											55	13年9月
15			1	3	3	15	29	26	23	8									108	14年5月
16					9	16	19	30	25	14	4	3							120	14年8月
17					9	10	17	34	31	15	3	5	1						125	14年10月
18					1	4	10	11	18	12	5	5			1				67	15年1月
19								1	1	2	2	2			1	1			10	16年3月
(小計)		1	5	4	34	58	99	110	98	51	14	15	1		2	1				
計	1		9		92		209		149		29		1		3				493	14年7月
%			1.8%		18.6%		42.5%		30.2%		5.9%		0.8%							

松本の神奈川女學生の調査によつても、15年未滿の者の平均初經年齢は14年2.18月、15年代14年4.06月、16年代14年6.06月、17年以後14年4.52月である。

初經の來潮する年齢範囲に就いては、長崎女生徒は11歳から19歳であるが、14歳代最も多く、13歳から15歳の3年間に合すると86.6%、12歳から18

歳までの7年間では98.9%で諫早女生徒は11歳から18歳の範囲で13歳から15歳の3年間に91.3%、12歳から18歳まででは99.8%兩者とも初經年齢範囲は、12歳から16歳の5年間に大部分を占め、14歳代が最も多い。

初經來潮期は時、所、職業等により差異があると云われているが、未だ全てには、月經のない若年

者を対象とする時は、上記したように年齢構成を考慮に入れて観察せねばならない。此の點に於て従來の發表による地方、環境、年代等により、初經期に差異ありと云われるものは、女學生に關する限り、一應再考の餘地があると思う。既發表

表 7

報告者	調査対象	初經年齢	發表年度
岡 島 施	九州女學生	14年3月	大正11年
	京都女學生	14年5.5月	昭和2年
松 山 小 畑	全國女學生	14年2月	昭和4年
	東京女學生	14年2.5月	昭和4年
辻 塚田,森	九州女學生	14年5月	昭和5年
	關東女學生	14年3月	昭和21年
庄司,刈屋	岩國女學生	14年8月	昭和22年
	神奈川女學生	14年4.61月	昭和25年
松 本 山 田	熊本女學生	14年3.37月	昭和26年
	岡山女學生	14年7.8月	昭和26年
梶 川	紡績女工	15年1月	昭和6年

の若干を表7に擧げておく。

未だ月經の無い者、長崎女生徒 3200名、諫早女生徒の 233名を年齢別に、既に月經ある者と關連させて表8を作つた。

これを見ても、13歳より漸次多くなり14歳代では半数17歳では殆んど全部に月經を見るもので、これは前記の初經來潮年齢範圍と大體一致している。調査時年齢別にみると、長崎女生徒が、月經のある者の百分率が低いが、平均初經年齢は何れも大體同じであつて、長崎諫早間に著しい初經期の差異を認めない。

未だ月經のない者を殆んど含まない16歳以上の者の平均初經年齢は長崎14年9月、諫早14年10月である。この數値は性熟婦人に就いてのそれと見做し得ると思う。

表 8 現在年齢(調査時)

		11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳以上	
長 崎	初經のまだない者	3	778	1291	748	300	67	9	2	1	1	3200
	月經のある者 (平均初經)	0	21 (12.3)	141 (13.3)	595 (13.7)	999 (14.4)	814 (14.8)	657 (14.9)	419 (15.0)	164 (15.2)	65 (15.1)	3875
	計	3	799	1432	1343	1299	881	666	421	165	66	7075
	月經ある者の%	0%	2.6%	9.1%	44.3%	76.9%	92.5%	98.8%	99.5%	99.4%	98.5%	
諫 早	初經のまだない者		69	96	51	12	3	0	2	0		233
	月經のある者 (平均初經)		0	8 (13.0)	55 (13.9)	108 (14.5)	120 (14.8)	125 (14.10)	67 (15.1)	10 (16.3)		493
	計		69	104	106	120	123	125	69	10		726
	月經ある者の%		0%	7.7%	51.9%	90.0%	97.5%	100%	97.1%	100%		

表 9 初經と季月

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
長 崎	443	226	280	490	313	299	279	453	266	314	260	252	3875	
	11.4%	5.8%	7.2%	12.6%	8.1%	7.7%	7.2%	11.7%	6.9%	8.1%	6.7%	6.5%		
諫 早	56	25	36	63	29	42	35	63	29	45	40	30	493	
	11.3%	5.0%	7.3%	12.7%	5.8%	8.4%	7.0%	12.7%	5.8%	9.1%	8.1%	6.0%		
		冬(12,1,2月)			春(3,4,5月)			夏(6,7,8月)			秋(9,10,11月)			
例 數		1032			1211			1171			954			4368
%		23.6%			27.7%			26.8%			21.8%			

初經と季月との關係

表9に示すように、長崎市内學校女生徒にては4月が最も多く、8月、1月、10月の順で、諫早市内女生徒は4月、8月が同率で最も多く1月、10月の順で、略々長崎女生徒と同様であつて、四季別には兩者を合せて春夏冬の順となる。初經來潮期に關しては季節従つて氣温、精神状態、營養環境等が關係すると云われているが、女生徒に就いては施、辻、松山、原、莊司等何れも8月、4月、1月に多く、2月、6月、1月、11月に少いと云う。之には休暇と試験に伴う精神的肉體的状态が影響すると云う特殊事實を認めている。吾々の成績は寧ろ一般婦人に近い型をとつてゐるのは單なる偶然によるか、又は戦後の女學生の特性をなすものであろうか？

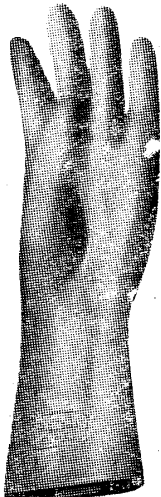
本調査の一部は文部省科學研究費によりなされたものであり、託して感謝の意を表する。尙本調査は三谷教授、

小田、高木、三好、山尾、安永、平田、伊集院、今村、藤井、藤田、大野(和)、樋口、達木、檜林、行成、川上、宿輪、大野(力)、森、永田(ス)、田栗、若原、賀村、小山、田中、椎木、小寺、永田(弘)、宮村の協力による。尙終始、統計學上の御援助を賜つた森教授に深謝する。

文 獻

- 1) 長崎市勢要覽、昭和20年。—2) 原子爆彈災害調査研究報告。都築正男、昭21年4月。—3) 原子爆彈放射線病の臨床。佐々貫之、昭21年3月。—4) 莊司、刈屋：産科と婦人科、14巻45頁、昭22年。—5) 松本：臨床婦人科産科、4巻346頁、昭25年。—6) 山田：臨床婦人科産科、3巻63頁、94頁、昭24年。—7) 原：臨床婦人科産科、5巻257頁、昭26年。—8) 施：近畿婦人科學會雜誌、10巻547頁、昭2年。—9) 松山：臨床婦人科産科、4巻535頁、昭4年。—10) 辻：日本婦人科學會雜誌、25巻、843頁、昭5年。—11) 小畑：日本婦人科學會雜誌、24巻1245頁、昭4年。—12) 梶川：日本婦人科學會雜誌、26巻636頁、昭6年。—13) 塚田、森：産科と婦人科、14巻107頁、昭21年。

(No. 17 昭 26・11・26 受付)



“米國と西獨逸の新入荷品”

(通産省輸入許可品)

米國製

ウイルソン、ゴム手袋

1組… ¥ 280.

ウイルソン護謨會社の品質優良と便利なることは戦前よりあまりにも有名です。今回大量入荷致しました。本品の御使用を切に御奨め致します。

- ★ 10回の熱氣消毒に耐える。
 - ★ 使用中に何等の抵抗が無く、表面がザラザラして居るから器物を滑り落とす事がない。
 - ★ 3年間の保證が付いて居る。
- SIZE. 6¹/₂ 7. 7¹/₂



弊社が曩に輸入致しました本「ラミナリア」は絶大な御好評を賜り早くも品切れとなりました所、今回再び入荷致しました。國內産に比し永久の御使用に耐え得る絶對優秀な本品の御下命を御待ち致して居ります。

紙 函 入… 1打 ¥ 1,300.
アンプル入… 1打 ¥ 1,500.

東京都文京區春木町
3丁目25番地

株式會社

野上器械店

電話小石川(85)2254, 5420
振替東京173154